

(5) 化学工業

◆ 概要

平成 17 年の工業統計調査結果報告(従業者 4 人以上の事業所)によると、事業所数 55 所、従業者数 2,308 人、製造品出荷額等は 663 億 77 百万円となっている。

平成 8 年以降の推移を見ると、事業所数は平成 17 年まで減少し続けているが、従業者数及び製造品出荷額等は、平成 16 年以降、徐々に回復基調にある。

平成 15 年までの落ち込みは、長引く景気低迷に伴い、顧客先となる各製造業からの需要減退による出荷額の減少に起因するものである。一方、平成 16 年以降の出荷額回復については、大手事業所が存在し、出荷額の比率も高い界面活性剤製造業(石けん及び合成洗剤を除く。)などを中心に復調の兆しが見えつつあることが要因として挙げられる。

なお、平成 17 年は、平成 8 年の調査と比較して、事業所は 9 所減(△14.1%)、従業員数は 358 人減(△13.4%)、製造品出荷額等は 283 億 86 百万円減(△30.0%)となっている〔表Ⅱ-3-5-1、図Ⅱ-3-5-1〕。

◆ 市内の化学工業の特色

化学工業の製造品出荷額等を産業細分類別に見ると、界面活性剤製造業(石けん及び合成洗剤を除く。)が 190 億 65 百万円(構成比 28.7%)と最も多くなっており、次いで、他に分類されない化学工業製品製造業、環式中間物・合成染料・有機顔料製造業、頭髪用化粧品製造業と続いている〔表Ⅱ-3-5-2〕。

前出の特化係数〔表Ⅱ-3-1-3〕を見ると、事業所数が 0.89、従業者数が 0.74、製造品出荷額が 0.35 と、構成比は国内平均を下回る水準にある。

ただ、西陣織や京友禅など染織業の関連産業として繊維工業の精練、染色助剤及び仕上剤として利用される界面活性剤(石けん及び合成洗剤を除く。)の製造業が多く立地してきた。

現在は、産業構造の変化などに伴い、使用の用途が広がってきただけでなく、海外にユーザーを有す

る比較的大規模な事業所も増え、市内に本店を構える上場企業 2 社をはじめ、他市に比べると多くの界面活性剤製造業の事業所が存在することが特徴である。

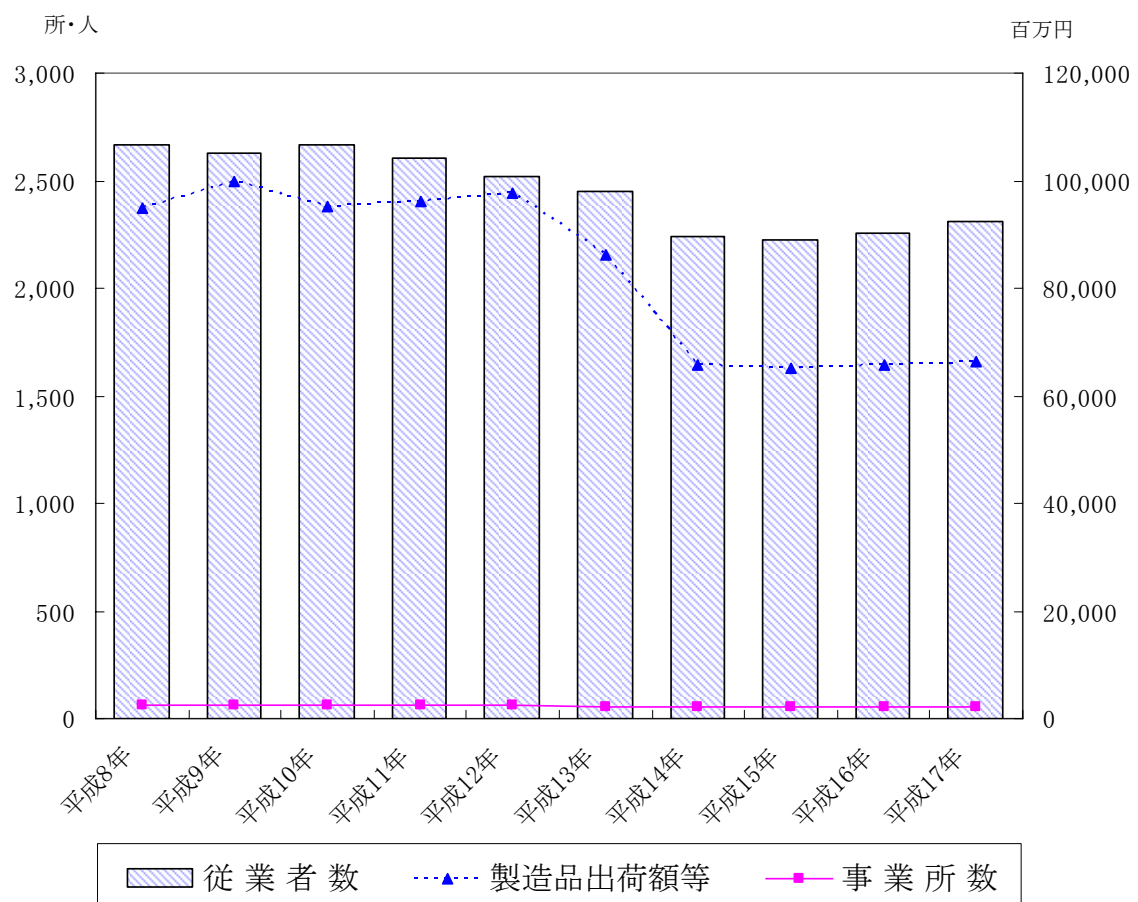
表Ⅱ-3-5-1 化学工業の事業所数，従業者数，製造品出荷額等の推移

(単位：所，人，百万円)

	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
平成8年	64	2,666	94,763
平成9年	62	2,631	99,737
平成10年	62	2,663	95,062
平成11年	61	2,607	96,152
平成12年	61	2,517	97,622
平成13年	58	2,446	86,184
平成14年	58	2,242	65,658
平成15年	56	2,222	64,986
平成16年	55	2,255	65,889
平成17年	55	2,308	66,377

資料：京都市総合企画局「平成17年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

図Ⅱ-3-5-1 化学工業の事業所数，従業者数，製造品出荷額等の推移



資料：京都市総合企画局「平成17年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

表Ⅱ-3-5-2 化学工業の主な産業（細分類）別事業所数、従業者数及び製造品出荷額等

（単位：所，人，万円，％）

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
	平成17年	構成比（％）	平成17年	構成比（％）	平成17年	構成比（％）
化学工業	55	100.0	2,308	100.0	6,637,727	100.0
その他の無機化学工業製品製造業	3	5.5	52	2.3	×	×
環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	6	10.9	443	19.2	×	×
石けん・合成洗剤製造業	3	5.5	35	1.5	×	×
界面活性剤製造業 （石けん合成洗剤を除く。）	4	7.3	359	15.6	1,906,471	28.7
医薬品製剤製造業	2	3.6	125	5.4	×	×
頭髪用化粧品製造業	3	5.5	101	4.4	345,584	5.2
ゼラチン・接着剤製造業	2	3.6	14	0.6	×	×
他に分類されない化学工業製品製造業	14	25.5	545	23.6	1,250,626	18.8

資料：京都市総合企画局「平成17年工業統計調査結果報告（従業者4人以上の事業所）」

なお、細分類については主なものを取り上げている。

注：該当事業所が特定されるおそれのある箇所は、「×」で表記。